



知っておきたい 肺炎球菌ワクチンの話

～65才からの肺炎予防～

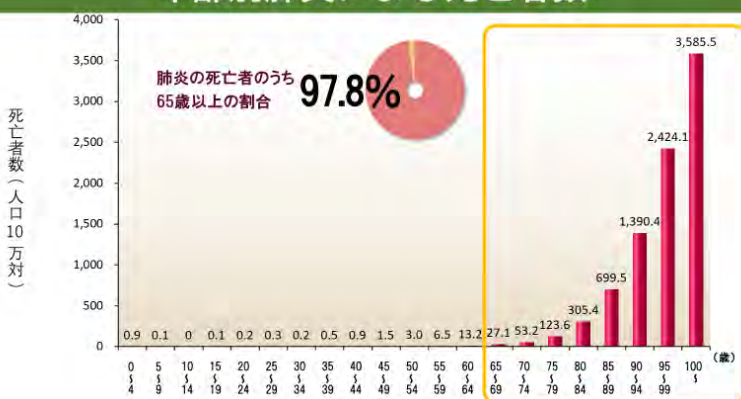


産業医 田名 毅
首里城下町クリニック

産業医だよりでは、毎月私のクリニックで行っている 地域むけ医療講演会 YouTube 配信の内容を要約してお伝えしています。今月は「知っておきたい肺炎球菌ワクチンの話～65才からの肺炎予防～」というタイトルで、仲本病院の理事長・院長 玉城 仁 先生にお話をいただきました。以下に紹介します。

年齢別死亡者数は、高齢になるほど肺炎で亡くなる方が増え 65 才以降では対策が必要になってきます。肺炎の多くは風邪症状と似ていますが発症後急激に症状が進む場合があります。肺炎の症状には、発熱悪寒息切れたんを伴う咳呼吸時の胸痛疲労感 などがあります。特に黄色い痰は細菌感染を起こしていることが多いので注意が必要です。

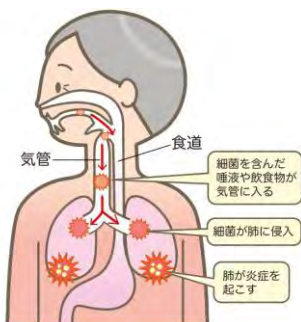
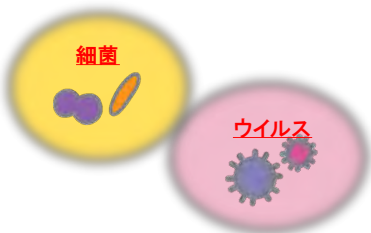
年齢別肺炎による死亡者数



肺炎は、主に細菌やウイルスなどが肺に入り込んで起こる肺の炎症です。その原因で最も多いのが肺炎球菌です。

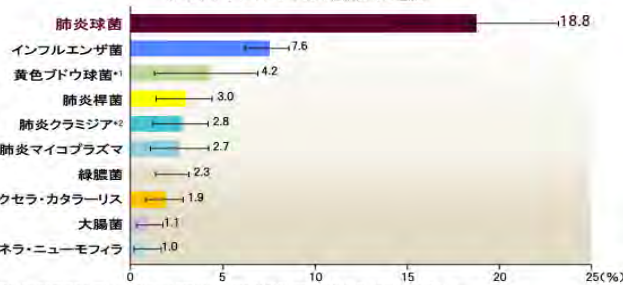
どうして肺炎になるの？

一般的な肺炎とは、主に細菌やウイルスなどが肺に入り込んで起こる肺の炎症



肺炎球菌が一番多い肺炎の病原菌

国内9研究 (市中肺炎3,077症例)、上位10病原微生物 (メタアナリシスにより95%信頼区間を追加)



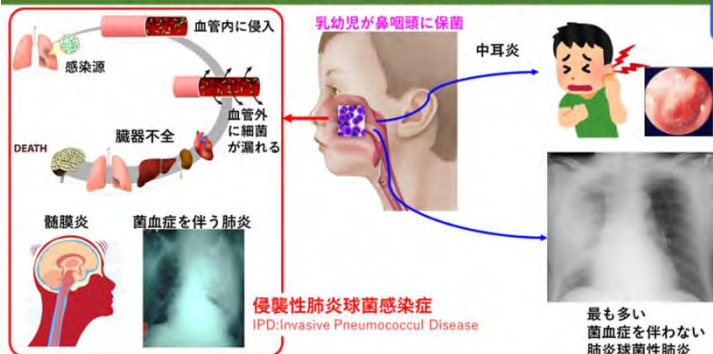
*1: MSSA, MRSAを区別している201株のメタアナリシスではMRSAは28.4%(95%CI 13.2-43.6)であった。

*2: Micro-IF法による診断率(2論文) 28/922=3.0%、ELISA法による診断率(5論文) 71/2,022=3.5%

日本呼吸器学会,成人肺炎診療ガイドライン2017 p10

乳幼児の鼻咽頭に肺炎球菌が存在することが多く、中耳炎、肺炎の原因になります。重い病気としては髄膜炎、菌血症を伴う肺炎(2日ほどで亡くなる)などもあり、注意が必要です。子どもに肺炎球菌ワクチンが必要であることがよく理解できます。この乳幼児が持つ肺炎球菌が、家族内で高齢者に感染を引き起こすことがあり、注意が必要です。

肺炎球菌の保菌と肺炎球菌感染症



人から人へ、お孫さんから祖父母へ感染することあり



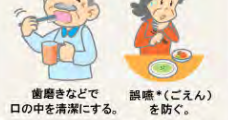
肺炎の予防は、新型コロナウイルス感染症と同じでまずは衛生面の注意です。そして日頃の体調管理、そしてワクチンです。

体の抵抗力を強める

細菌やウイルスが体に入り込まないようにする

マスク、手洗い、うがいをする。

口腔ケアも大切です。



歯磨きなどで口の中を清潔にする。 誤嚥*(ごえん)を防ぐ。
*誤嚥とは、飲み込む運動がうまくいかなくて、本来、食道に入るはずの飲食物や唾液が、誤って気管に入ってしまうことをいいます。



ワクチン(予防接種)を受ける

肺炎球菌ワクチンとインフルエンザワクチンを受ける。



※予防接種は、すべての肺炎を防ぐものではありません。

肺炎球菌ワクチンには、2種類あります。

	プレベナー13®水性懸濁注	ニューモバックス®NP
接種対象者	小児(肺炎球菌による侵襲性感染症の予防): 2か月齢以上6歳未満【詳細は添付文書参照】 ¹⁾	2歳以上で肺炎球菌による重篤疾患に罹患する危険が高い個人及び患者【詳細は添付文書参照】 ^{4),5)}
接種経路	皮下	筋肉内又は皮下
生物学的製剤基準・有効成分名	沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン(無毒性変異ジフテリア毒素結合体)	肺炎球菌ワクチン(23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン)

プレベナーは生後2か月以上から5歳未満の小児に接種すると、肺炎、髄膜炎になる症例が減っていることが報告されています。ニューモバックスは65才以上の高齢者の肺炎予防を目的に行政からの補助を使って受けられるようになっています。65才から

接種案内が開始され、受けていない方には受けるまで5年ごとに接種案内が行くようになっています。

プレベナー(PCV13)とニューモバックス(PPSV23)の違いは、PCV13はPPSV23より含まれる莢膜の血清型の数は少なく、PPSV23と違って莢膜多糖体にキャリア蛋白がついているため、身体の中でT細胞経由のB細胞の免疫記憶が確立され、優れた免疫応答を起こすことができます。

高齢者の肺炎予防のためには、インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンをその用法通りにいずれも接種することが重要です。

最後に65才以上の肺炎球菌ワクチン接種の考え方を示します。助成金で最初にニューモバックスを接種した方、自費でプレベナーを最初に接種した方、それぞれでその後のワクチン接種計画が異なりますので、この表を基に主治医、かかりつけ医と相談して適切な肺炎球菌ワクチン接種が受けられるようご検討ください。

65歳以上の肺炎球菌ワクチン接種の考え方

(2019年～2023年度の接種)





第 221 回首里城下町クリニック地域むけ医療講演会

テーマ：『頑固な痛みをおこす

帯状疱疹を予防するワクチンの話』

YouTube 配信



日時：令和4年10月12日（水）午後7時～配信

講師：琉球大学病院 皮膚科 皮膚科専門医・アレルギー専門医
助教 宮城 拓也 先生

首里城下町クリニック『働く人健康支援室』は、

あなたの **相談窓口** です！



産業医・内科医
高血圧が専門です
田名 毅

相談窓口

産業医は、あなたの職場とそこで働く人々の心とからだの健康を支援します。

★訪問日を設けている事業所の職員は、お気軽に訪問日をご活用下さい。

★クリニック内の『働く人健康支援室』では健康相談を行っています。
事前にお電話の上、いらしてください。

★クリニック内で産業医との面談は診療の合間となりますが可能です。
事前にお電話くださり働く人健康支援室で“産業医との面談”とお声掛けください。診察や検査の必要がない限りは無料です。

★その他、電話やメール相談も随時行っています。



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー CDA
認定産業看護師 田名彩子



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー CDA
與儀雅代



認定産業看護師
山城愛子



連絡先

首里城下町クリニック 働く人健康支援室
098-885-5000

携帯 080-4312-9200(田名彩子)
メール sien@sjc.dr-clinic.jp(働く人健康支援室)

プライバシーは守ります。
お気軽にご利用下さい！